

干潟(ひがた)には どんな生きものがすんでいるのだろう？ ～生命の宝庫 蒲生干潟の生きもの調査～

主 催 団 体	蒲生を守る会 連絡先：〒980-0811 仙台市青葉区一番町 4-1-3 蒲生を守る会 レターケース 87 番 担当者：熊谷 佳二 ☎ : 022-255-5043 e-mail : kuma.kei@miyagi.email.ne.jp	
体 験 活 動	・仙台市宮城野区蒲生干潟で、小グループに分かれ、生きものを調査する。 ・児童が見つけた生物を現場で同定し、体のしくみや生態を観察する。	
ね ら い	生命の宝庫である干潟には、たくさんの生きものが、多様な環境に適応してくらしていることを知るとともに、震災で壊滅的な被害を受けた干潟の生態系が再生しつつあることを実感する。	
時 間	90分 (45分×2)	
対 象 学 年	小学4年生～6年生	
関 連 教 科 等	4年生 理科：自然のなかの水のすがた 6年生 理科：生き物のくらしと環境、変わり続ける大地	
対 象 人 数	100人程度まで。引率教師最低3人必要(1人は救護用車運転担当)	
授 業 形 態	現地での体験活動	
場 所	蒲生干潟(仙台市宮城野区)	
時 期	6月～10月	
準 備 物	児童：帽子、長靴(サンダル不可)、軍手、タオル、水筒	教師：生きもの調査カード
留 意 事 項	・海辺の活動は危険が伴うので、安全面に十分に配慮する。 ・国の鳥獣保護区特別保護地区等に指定されているので、生きものを持ち帰り、ゴミの投棄などは厳禁である。	
備 考	<参考文献> ・干潟ベントスフィールド図鑑 日本国際湿地保全連合 2014 ・生命の宝庫 蒲生干潟 ～自然と生物のガイドブック～蒲生を守る会 2004 ※室内で「アサリの水質浄化実験」や「干潟の泥の中の生物観察」などの授業も可能です。	

【活動の様子】



プログラムの流れ（学習指導案） 90分

学 習 活 動	時 間 (分)	主催団体及び教師の役割	
		主催団体の役割	教師側の役割（最低3人）
<p>1 本時の課題の確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>干潟にたくさんの生きものがくらしている理由を探ろう！</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の予想（仮説）を立てる。 	10	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介 ・活動内容や場所の特徴を説明し、安全のための注意を促す。 ○干潟生物図鑑を使って、カニや貝、ゴカイなどの写真を見せ、興味・関心を高める。 ○今日めあてを提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○点検と確認 ・干潟に近い駐車場でバスを降りて整列し、挨拶を行う。 ・服装、準備物を点検する。 ・事前の健康確認を行う。 ・人数確認を行う。
<ul style="list-style-type: none"> 2 干潟に向かい海岸を歩く。 ・海浜植物の観察 	15	<ul style="list-style-type: none"> ○歩きながら、海浜植物の観察を行う。さわたり、ちよとがじったりしてみる。 ・ハマツナの葉は塩からい、ハマニガナは苦い、ゴウボウムギの名前の由来など。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者と共に1名は先頭、1名は中ほど、1名は最後尾につき、列を誘導し、安全に気を配る。
<p>3 干潟の生きもの調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AとBの2つのグループに分かれて活動する。 ・Aは干潟の表面の生きもの、Bは泥の中の生きものを採集し、容器に入れる。 ・活動時間は15分間。 	25	<ul style="list-style-type: none"> ○ただの砂や泥のように見える干潟にはさまざまな生きものがすんでいることを説明する。 ○グループごとに生きものをつかまえて、持ってくるように指示する。 ○集まった A と B の生きものを別々にまとめ、種類ごとに仕分けして、いくつかの容器に入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループ活動の指示 ・A、B10名ずつ位のグループを同数になるように複数つくる。 ・Aは泥の表面や石をひっくり返したりして探し、Bは移植バウで泥を掘って見つける。 ・安全面に十分配慮させる。
<p>4 観察と調査結果の集計</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生きもの調査カードに書き込む。 ・AとBの違いを考える。 ・グループで話し合い、予想（仮説）を検証させる。 ・発表させる。 ・課題の解決 	20	<ul style="list-style-type: none"> ○AとBの生物の種名をリストアップし特徴や生態などを説明する。 ・特に希少種に注目させる。 ○AとBを比較する。 ・Aはカニなど、Bは貝やゴカイの仲間 ○グループごとに予想（仮説）を検証させ、発表させる。 ○干潟の環境が多種多様であるからこそ、たくさんの生きものが、それぞれの環境に合わせてくらしていることを確認し、本時の課題を解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループ活動を指示 ・指導者の説明を聞きながら、生きもの調査カードに書き込んでいくことを指示する。 ・グループでの話し合いでは、巡回・助言したりして、予想（仮説）検証の支援を行う。 ○生きものを持ち帰ったりしないで、元の場所に戻すように指導する。
<p>5 まとめ、振り返り (現地で行う。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感想発表 ・駐車場に戻り、挨拶 	15	<ul style="list-style-type: none"> ○活動の感想を発表させる。 ○まっすぐに駐車場に戻るよう、先導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○点検と確認 ・整列して駐車場まで戻る。 ・挨拶を行う。 ・忘れ物がないか確認する。

* 備考：事前の打合せで、指導者と先生の役割分担や生きもの調査カードの形式などを話し合って決める。